

# 熱中症対策VR

伝えているのに、行動が変わらないその“理由”を理解する。



## プログラムの特長 /

見逃しのプロセス体験

熱中症のサインを、時間軸で段階的に体験

認識のズレの可視化

“わかっているつもり”を、体験で再認識する

実施のしやすさ

短時間・低負担で、現場に取り入れやすい

## 熱中症対策VRとは

見逃されがちな初期症状や判断の遅れを体験し、  
早期の気づきと行動を考えるきっかけを  
提供するプログラム

## VRコンテンツ

本プログラムは、「**熱中症のサインを知ろう**」と「**年齢とともに変わる熱中症対策**」という2つのテーマで構成されています。

### サインの段階的理解

## 熱中症のサインを知ろう


熱中症のサインを、時間軸で段階的に体験するコンテンツ



日常生活の中で起こりうる場面をもとに、熱中症が重症化した状況から時間を巻き戻し、主に中等症・軽症の段階へと遡りながらサインの進行を体験します。だるさやめまい、こむら返りといった初期症状が、どのように重症化へとつながっていくのかを当事者視点で疑似体験できる構成です。



さらに、各段階に応じた初動対応もあわせて学ぶことで、「気づく」だけでなく「対応できる」視点を養います。「なぜその時に気づけなかったのか」という判断の遅れまで可視化することで、早期発見・早期対応につながる理解を支援します。

 体験時間 約10分

### 認識の再構築

## 年齢とともに変わる熱中症対策


身体と環境の変化を、対話を通して再認識するコンテンツ



一人暮らしの高齢者の日常を舞台に、対話形式で熱中症リスクを再確認するコンテンツです。加齢による身体の変化や脱水リスクに加え、室内や夜間の温度上昇といった環境要因を可視化し、「暑くない」「まだ大丈夫」という感覚とのズレを体験的に理解します。



さらに「電気代が心配」「昔は扇風機で十分だった」といった生活習慣や価値観にも触れながら、水分補給やエアコン使用が後回しになる背景を捉え直します。具体的な水分補給の目安や脱水チェック、就寝時のエアコン活用など、実践につながる対策までご提示します。

 体験時間 約10分

## 活用シーン



### 自治体での活用 | 熱中症関連セミナー・展示ブースへの導入

講義や資料による説明に加えてVR体験を組み込むことで、理解を深め、参加者の関心を高めることができます。体験後の振り返りや意見交換と組み合わせることで、「わかった」で終わらず、行動変容につながるセミナー設計が可能です。



### 医療機関・福祉施設での活用 | 医療・介護従事者向け研修での活用

支援者向けコンテンツを通して、高齢者の感じ方や判断の背景を理解する研修ツールとして活用できます。現場での声かけや関わり方を見直すきっかけとなり、支援の質を高めることを目的としています。



### 企業での活用 | 健康経営・安全衛生教育への導入

社員向けの健康教育や安全衛生研修の中で活用できます。特に高齢従業員を含む現場において、高温環境下での熱中症リスクへの理解を深め、現場での判断力や初動対応の向上につながります。

## 監修者からのメッセージ



横堀 将司 先生

日本医科大学大学院医学研究科 救急医学分野 教授  
日本医科大学付属病院 高度救命救急センター 部長

気候変動の進行に伴い、熱中症のリスクは年々高まっており、とりわけ高齢化が急速に進む日本においては、看過できない深刻な健康課題となっています。熱中症による死亡者数の半減を目標に、さまざまな対策が講じられていますが、その根幹にあるのは、熱中症に対する正しい理解と、一人ひとりの行動変容です。熱中症対策の重要性は、言葉や文字だけでは十分に伝わりにくい側面があります。VR体験を通じて、身体の変化や危険の兆候を実感として理解することで、早期の気づきが促され、結果として適切な行動につながることを期待しています。



野呂 美香 先生

医療法人社団YAYOI やよい在宅クリニックやよい訪問看護ステーション

熱中症対策VRの詳細につきましては、公式サイトに掲載しております。右記二次元コードよりご確認ください。▶



販売  Otsuka

開発・製造 

2026年5月改訂  
FD2605005